

H A N A Z O N O

# Global

Vol. 7

花園から世界へ！

“Set your horizons far and wide!”

スタンフォード日本センター所長からの  
メッセージ

校訓は「Die Luft der Freiheit weht (独：自由の風が吹く)」。サンフランシスコから約 60 km 南東に位置し、シリコンバレーの中心に位置するスタンフォード大学。花園の GTN・中村広記先生と、世界で活躍するグローバル人材との対談。第5回目は、スタンフォード日本センターのマイク・ヒュー所長にお話を伺います。

花園プレス・グローバル



# トラベル（旅）こそ グローバル化のエッセンス

中村：まず最初にスタンフォード日本センターについて、その設立や運営の目的などについてお聞かせ願えますか？

ヒュー：スタンフォード大学は海外留学に非常に力を入れていて学部生の 55%が海外に留学します。現在、私が携わっている BOSP プログラム（Bing Overseas Studies Program）はスタンフォード大学の海外留学プログラムの中でも最大のもので、私のいる日本センター（京都）をはじめ世界中に 10 か所のセンターがあり、今後センターの数をさらに増やしていこうとしています。

日本センターは、このプログラムを始めてから 27 年になりますが、他のセンターと比較して歴史的に言えば中ぐらいで、最も古いのはフローレンスで 50 年前にはスタートしていたと思います。このように、スタンフォードは海外留学プログラムのサポートに長い歴史を持っています。

次に、なぜスタンフォードがこのプログラムを始めたかについてですが、私たちは若い人を育てるのに最も良い方法の一つは、特にグローバル化が進む時代においては“トラベル”（旅）だと信じています。これは別に新しい考えではありません。この 1 世紀の間、人々は“トラベル”（旅）は良いことだと考えてきました。私たちは、今もなおその考えにこだわっているのです。世界に 10 か所ものセンターを維持していくにはかなりの費用がかかりますが、“トラベル”（旅）を通して私たちは学生をサポートしていきます。海外留学プログラムを持っている大学はアメリカにもありますが、独自で常設のセンターを持ち、全日制のクラスを提供している大学は極めてまれだと思います。



中村：日本滞在中、彼らは日本について何を学びますか？ 日本での生活について、どのようなことに気付くのですか？

ヒュー：このプログラムに参加するには日本にやって来るまでに日本語の勉強をしておくことが必須条件なのですが、日本語の勉強を通して、日本について彼ら自身のイメージを持って日本に来ます。なかには実際より美化してくる生徒もいます。たしかに日本は素晴らしい国ですが、彼らが当初抱いていたイメージとは違うことに驚くこともあるようです。

しかしながら、日本をもっと経験することによって、本当に興味深く魅力的で素晴らしいものがあることに気づくようになります。それは当初持っていたイメージとは違いますが、その当初の考えとかイメージとは違うということが素晴らしいことなのです。そうしたことを通して彼らは日本と強い絆を持つことが出来るのです。



中村：スタンフォード大学の学生と日本の学生との違いはどのようなところだと思われますか？

ヒュー：私たちの授業では自分の意見を述べることに重点を置いていて、意見を出させるように授業設計をしています。自分の意見を述べない学生は授業でよくやっているとは見なされません。しかも違った意見、反対意見を述べるのが重要だと指導しています。物ごとを理解するには違った方向から見るのが重要なのです。

反対意見を述べるのは、互いが好きだとか嫌いだという個人的な感情からではなく理知的に考えた結果によるものだという事をスタンフォードの学生は理解しています。もちろん、日本の学生から学ぶこともいろいろあります。プロジェクトの進め方なんかは本当にうまいです。また何かをするのにどんな目標設定をしなければいけないか、どんな作業が必要か、誰が何をするかといった、いわゆるセルフオーガニゼーション（自発的秩序形成）に長けています。従って、スタンフォードの学生と日本の学生が、互いに学びあうことは本当にたくさんあると思います。



中村：スタンフォードの学生にも日本の学生にも得意とするところがあり、合わせることによって素晴らしいハーモニーが生まれるということですね？

ヒュー：全くその通りです。スタンフォードの学生も日本の学生も大変優秀です。また彼らは何事にも一生懸命に取り組もうとします。もちろん弱点もあると思いますが、全く心配していません。なぜなら弱点があるから大学で学んでいるのです。私は本当にスタンフォードの学生と日本の学生の素晴らしいコラボレーションがドリームチームを作ると考えています。

# 出来るだけ早い年代から世界と触れ合う

中村：本校では「10年後の社会で活躍できる人材」の輩出を目指し、「スーパーグローバル ZEN コース」と「ディスカバリーコース」という中高一貫コースをスタートさせ、先進的な教育活動を実践しているのですが、日本のグローバル化についてどのような感想をお持ちですか？

ヒュー：私は日本の教育システムの専門家ではありませんが、グローバルな人材を育む上で大切なことは、やはり出来るだけ早くから教育することだと思います。それはまさしく花園さんが今やられていることに他なりません。私がいたアメリカやイギリスに比べて日本は世界と触れ合う機会が少ないように思います。だからこそ学校などの教育機関が世界と触れ合う機会を与えるようにしないとイケません。教育関係者の責任は重いと思います。日本のメディアも世界に目を向けさせるように若者を仕向けなければなりません。しかしながら、今の日本の若者は親の世代に比べて海外に出たがらない傾向があるようです。普通なら世代が進むにつれて海外に出たがるものですが日本はそうではないようなので心配しています。なぜそうした状況になってしまったのかを理解するとともに、日本が今後とも海外で繁栄するためには、教育機関がそうした状況を打開する方法を模索していく必要があると思います。

この点で、中学入学時から圧倒的な英語教育の環境と様々な海外研修の場が用意され、海外大学進学を視野に入れた、花園の新しいコースの教育コンセプトには大変共感しています。

中村：最後に、花園中学高等学校の生徒にメッセージやアドバイスを頂けないでしょうか？

ヒュー：分かりました。花園中学高等学校の生徒さんを勇気づけるために次の言葉をおくりたいと思います。

**“Set your horizons far and wide!”** 海外に出て新しい文化を学んだことは私の人生に大きな恩恵をもたらしました。従って花園中学高等学校の生徒さんにも同じようにやってもらいたい。恐れずに、大変なこと、難しいことに果敢にチャレンジして欲しい。そうすることによって得るものは非常に大きいと思います。簡単なことほど得るものは少ないわけですから。

中村：素晴らしいメッセージを有難うございました。



HANAZONO  
Press  
**Global**

花園プレス・グローバル、第七号はいかがでしたか？  
マイク・ヒュー所長から頂いたメッセージ  
” Set your horizons far and wide!” いいメッセージ  
でしたね。horizons には範囲、限界、視野といった意味  
がありますが、どこまで遠く、どれだけ広くセット  
出来るかで人生の景色が変わっていくわけですね。  
次回もお楽しみに。(A.H.)